

KAIRAKUEN

歩く庭から過ごすエリアへの転換
Have a relaxing time in KAIRAKUEN

茨城県 令和2年(2020)4月

R01.06.05 第一回
R01.12.26 第二回
R02.03.03 第三回

目次

- 1 偕楽園の魅力
- 2 偕楽園魅力向上に関する課題
- 3 課題解決に向けた目指すべき姿
- 4 魅力向上の理念・コンセプト
- 5 ゾーンコンセプト
 - ・ 偕楽園本園、歴史館、弘道館のコンセプト
 - ・ 偕楽園拡張部のコンセプト
 - ・ 千波公園のコンセプト
- 6 アクセス性の向上
- 7 コト消費(ソフト)の導入イメージ
- 8 アクションプラン(案)
- 9 事業の進め方

1 偕楽園の魅力

偕楽園の魅力 = 本質的価値

(1) 景勝地、風景地としての価値

① 千波湖八景

- ・徳川光圀が千波湖周辺の佳景として選定したとされるもの

② 水戸八景

- ・徳川斉昭が天保4年(1833年)に藩内巡視景勝地を選定
- ・偕楽園周辺「偃湖暮雪の碑」
⇒本園から千波湖の眺望



(水戸市HPから抜粋)

景勝地(景観的資源としての価値)

- ・徳川光圀、徳川斉昭によって千波湖八景や水戸(常陸)八景として、偕楽園が創設される前から自然の風景地、景勝地として認められていた地
- ・歴史的文化的な価値を現在に伝える偕楽園本園からの眺望は、現在においても水戸市、茨城県のシビックプライドを形成する地域随一の資源

(2) 偕楽園の思想 天保13年(1842年)開園

①藩主斉昭による設計思想

- ・民に開放
- ・敬老の式典も含めた園の一般公開
- ・梅林の多目的意味
- ・偕楽園記碑



- ・天保10年(1839年) 斉昭 起草
- ・園の創設理由と利用心得
- ・斉昭の人生観, 藩主としての姿勢, 弘道館と対の施設として構想

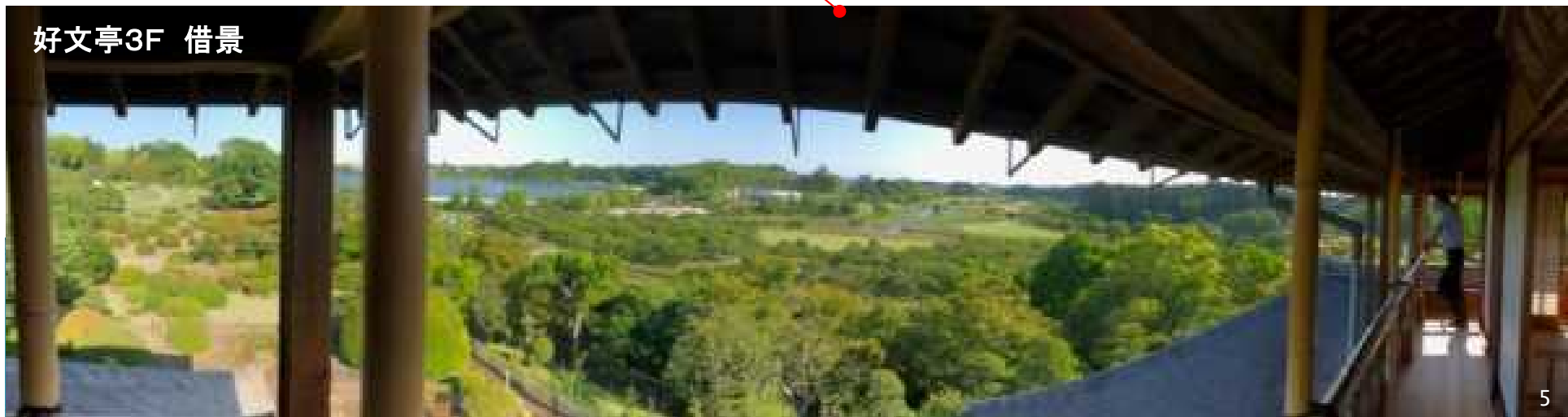
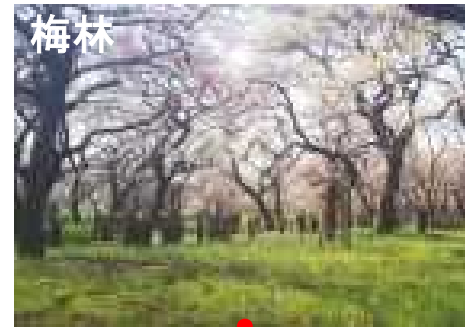
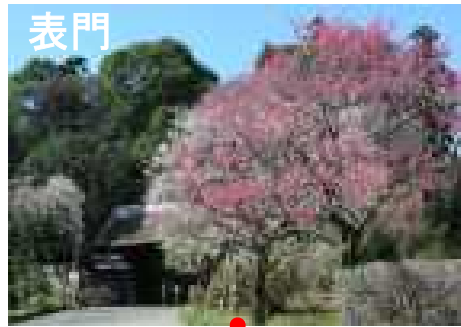
学ぶだけでなく時には休むことも大事(一張一弛)
藩内随一の景勝地, 梅を植え真っ先に春が来る場所にした
多くの人々と楽しみをともにしたいと思い「偕楽園」と名付けた
石碑裏面に公園利用規則を明記(禁条)

⇒ 公共苑地管理法規の最初のもの

(都市公園法解説抜粋)

公園の先駆け

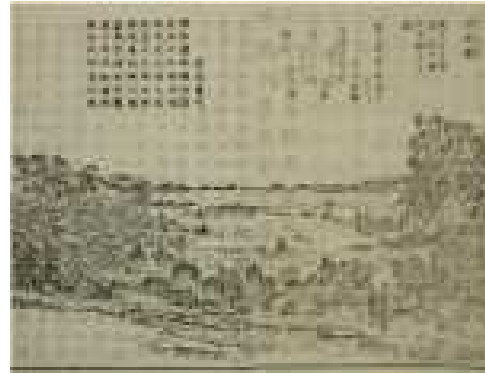
借樂園 (2019)



(3) 借楽園の評価

①明治18年 常磐公園攬勝図誌 (松平俊雄)

当時のガイドブック



②明治22年 正岡子規 水戸紀行

「此樓のけしきは山あり水あり奥如(おうじょ)と曠如(こうじょ)と兼ねて天然の絶景と人造の庭園をうちづづき常磐木、花さく木のうちまじりて何一つかげたるものまし 余は未だ此の如く婉麗幽遠(えんれいゆうえん)なる公園を見たることあらず 景勝は常に噂よりはあしきものなれどここ許りは想像せしよりもはるかによかりき 好文亭と名づけしは梅を多く植えたためならん」

③明治23年～ 行敬規

昭憲皇太后(明治23年)、大正天皇(明治35年)、東宮(のちの昭和天皇。大正元年)に行敬。好文亭への宿泊、お手植えを実施。

④大正9年 本多静六博士 日本庭園協会講演会

- 三大公園中最も優れたものと言い得るが、借楽園は素人好きのせぬ公園
- 借楽園は周囲二里の千波湖、緑ヶ岡等自然のままなる山水を抱擁せしめた有史以来の大公園である
- 人工二分、天然八分の庭園で二分の人口に誠に巧妙な近代の造園技術、自然物を利用した借景の妙
- 構造はあくまで簡単で広いところはただ広漠たる芝生で、その一方に常磐神社が杉森の扱い方が極めて大まかで気持ちがよい
- 見物順序 表門からはいって中門を通り、好文亭登って見晴らすこと

景勝地(景観的資源としての価値)、優れた造園価値

⑤大正11年 国指定史跡名勝指定

文化財としての本質的価値

- ・藩主斉昭による園の創設
- ・「近世における公園の濫觴」といえるもの
- ・敬老の式典を含めた園の一般公園
- ・梅林の多目的意味

平成19年12月 保存活用計画より

日本三名園の云われ

- ・明治34年(地理歴史問答唄歌)
- ・明治37年(国定教科書)
- ・明治43年(尋常小学読本)
- 「…水戸の公園、金沢の公園、岡山の公園なども、また名高し」

⑥平成27年 日本遺産認定

日本遺産“近世日本の教育遺産 —学ぶ心・礼節の本源—”
のストーリーを構成する水戸市内の文化財の一つとして認定

文化財(文化的資源としての価値)

(4) 借楽園の魅力の育成

文化的資源としての価値

国指定史跡名勝指定

① 藩主斉昭による園の創設

創設者である斉昭が借楽園記碑に残した作庭思想

- ・先進的な庭園
- ・千波湖，拡張部も含めた大スケールな庭園
- ・人工二分，天然八分の巧みな造園技術
- ・陰陽体験（表門から入り，好文亭へ）

② 「近世における公園の濫觴」といえるもの

- ・藩主だけの遊び場ではなく，
全く近代の公園として衆と偕に楽しむ目的で造園

③ 敬老の式典を含めた園の一般公開

- ・藩の老人を集めた催事
- ・藩民に自由に利用（一般公開）

④ 梅林の多目的意味

- ・春一番最初に花咲く先見性の象徴
- ・有事の軍用貯梅
- ・学問の木

景観的資源としての価値

- ① 千波湖八景
- ② 水戸八景

借楽園の思想

学びと休息
風景に触れ
季節を感じ
共に楽しむ

検討の方向性

風景の保全・育成

アクションプランに
基づき実施される
個々の取り組みが
風景を棄損することがな
いよう、最大の配慮

2 借楽園の魅力向上に関する課題

借楽園の魅力を高めるために、関連施設を含め地域・エリア全体で一体的に解決すべき課題。

本園

○文化的資源、景観的資源を活かす 配慮が不足

- ・借楽園の思想が継承できてない(梅の管理など)
- ・園内や千波湖への眺望が阻害されている
(人工構造物や巨木化した植栽木が支障)
- ・園内の仮設工作物が**景観を台無し**にしている
- ・規制柵などが無くてもいい場所にもある
- ・梅はキレイでも**写真映えしない**

○もてなす空間としての演出が不足

- ・看板, 建物などの色合い, **デザインに統一感**がない
- ・休憩所の雰囲気がない(毛氈や傘などの演出)
- ・梅林なども全体的な植え方の意図が不明(演出性)
- ・年間を通じた**空間演出が無い**

○ホスピタリティに欠けている

- ・ボランティアの質の向上(しゃべる⇒伝える人)
- ・ロッカー・ベビーカー置き場が分かりにくい
- ・照明の目隠しは4方を囲まないと意味がない
- ・販売商品も「**ここならではのもの**」が無い

○コンテンツ不足

- ・誰に何を楽しんでもらうのか不明確
- ・子供が楽しめるものが少ない
- ・夜楽しめるものがない
- ・**休むところがない**
- ・夏, 冬, 夜間の賑わいづくりがない
- ・**鑑賞が中心**で体験ができていない
- ・放送している音声ガイドなど誰も聞いていない
- ・看板以外の**情報発信(伝える)がない**

拡張部

- ・目的地が無い
- ・休むところがない(過ごせない)

アクセス(本園～拡張部)

- ・移動距離が長い
- ・線路, 道路, 河川で分断
- ・幅員が狭い
- ・目的地が無いと橋は渡らない
- ・橋が目立ち、景観を阻害している

歴史館(借楽園公園の一部)

○コンテンツ

- ・観光客向けの博物館になっていない
(面白味に欠ける)

弘道館

○コンテンツ

- ・看板以外の情報発信がない
- ・幅広い年齢層が**楽しめる体験が欲しい**

千波公園(県民の日常利用に関する課題)

○千波湖

- ・屋外施設が中心で、**滞在型の(屋内)施設がない**
(季節、天候にかかわらず楽しめる場が望ましい)
- ・買い物や地元の食を**楽しめる場所が欲しい**
- ・ボート小屋が古くて汚い(景観を台無しにしている)
- ・ウォーキング、ジョギング、散策以外のアクティビティが少ない
- ・ウォーキング、ジョギングの人へのサービスが無い
- ・水質が悪い(見た目に悪い、近寄りがたい)

○少年の森

- ・**休憩施設**を求める声がある(保護者が休むところ)
- ・駐車場が混雑している
- ・借楽園や千波湖からの**アクセスが悪い**
⇒防犯の観点からはアクセスは制限したい
- ・樹木は防風の効果はあるが、**眺望を阻害**している

共通

○運営

- ・施設毎に**管理者が異なる**
- ・看板のフォント, 色, **デザインがバラバラ**

水戸の印象(観光目線)

- ・**コト消費**のイメージが**不足**
- ・飲食できるところが少ない
- ・**魅力が点在**している
- ・水戸駅からの**アクセスが悪い**
- ・**話題性**に乏しい

3 課題解決に向けた目指すべき姿

課題解決に向けて・・・

- ・文化的資源、景観的資源の保全と活用
 - ・ホスピタリティ(おもてなし)
 - ・美しい空間としての演出
 - ・充実したコンテンツの展開(鑑賞+体験)
- ・水戸駅及び施設間のアクセス性向上
 - ・各施設の目的地化、魅力向上
 - ・飲食や休憩機能の充実
 - ・回遊したくなる仕掛け(話題性、コト消費)

重要な要素

- ・「偕楽園の思想」は現代にも通じる
【共感できる偕楽園の思想】
 - ・斉昭が愛した水とみどりの風景
その風景を未来に残すべき
- ・県民の日常的な“憩いの場”
 - ・県民が誇りに思う公園



目指すべき姿	日本を代表する通年型観光地 県民の豊かな生活を体感(実感)させる公園
目指すべき姿を 実現するための方策	・偕楽園の思想の共感と継承 ・エリアに共通したコンセプトによるトータルコーディネート ・ホスピタリティの提供 ・魅せる風景&体験の場の提供

4 魅力向上の理念・コンセプト

借楽園の思想の共感 = 齊昭の思い

誰もが楽しみ、癒される場所として借楽園を創設

■活動

啓 発	・日々学んだものを実践する場所 ・教養徳目「六芸」の実践の場(礼法・音楽・弓術・馬術・書道・算数) 心身ともに立派な人格形成
保養・リフレッシュ	・優れた風景のもと、心身ともにリラックスする場所 ・自分の好きなことをして過ごして保養し、より一層学ぶことに集中できる環境づくり(一弛の場)
産業振興	・梅・茶畑・養蜂・製陶など勸業施設的に位置づけ 学んだものを活かせる仕組みづくり

敬老の式典を含めた園の一般開放：様々な催しの場「衆と偕に楽しむ」

■空間構成

人工と自然のバランスに長けた巧みな造園技術
千波湖や周辺緑地を取り込んだ大スケールの借景公園

未来への継承と現在の技術、現代風アレンジによる磨き上げ

時代を超えて受け継がれる魅せる空間

本質的価値(文化的・景観的資源としての価値)を通じて、
あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場



本質的価値(文化的・景観的資源としての価値)を通じて、あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場



受け継がれる3つの鍵

新しい発見
(啓発) Inspire

- ・現代に通じる学びや体験の場(偕楽園・茨城ならではの「コト」消費)
- ・“今日も成長した”と実感できる場

新しい生活像
(リフレッシュ) Healthy

- ・花の彩りや香りによる自然とのふれあい
- ・水と緑に囲まれた中でのアクティビティ
- ・日々の疲れをとり、ココロとカラダを癒す場

新しい事業展開
(産業) Innovate

- ・茨城県を代表する名産品を堪能できる場
- ・“茨城らしさ”の提供(伝統文化の体験)

磨き上げる空間づくり

美しい空間演出

- ・統一・洗練されたデザイン(トータルコーディネート)
- ・歴史的・景観的価値が高い風景の保全(日本、世界に誇れる公園)
- ・魅せる風景づくり

ホスピタリティ
マインド

- ・利用者目線に立った、偕楽園らしい「おもてなし」
- ・安心・安全、快適・安らぎが得られるサービスの提供

検討のためのゾーニング ー借楽園を中心に据える水戸のまちづくりー

【ゾーニング】

- 1 水戸の歴史を体感するエリア history : ①本園 ②歴史館 ③弘道館
- 2 水とみどりの自然を活かすエリア nature : ④拡張部 ⑤少年の森
- 3 都市の中にある湖・豊かな生活を過ごせるエリア urbanity : ⑥千波湖

【周辺にある地域資源】

- ・桜川緑地, 沢渡川緑地, 西の谷, 紀州堀
- ・徳川ミュージアム, 市立博物館, 近代美術館, 水戸芸術館, アダストリア水戸etc



5 ゾーンコンセプト

- ・ 偕楽園本園, 歴史館, 弘道館のコンセプト ~水戸の歴史を体感できるエリア~

本園

【特性】

- ・170年以上の歴史をもつ空間(文化財)
- ・先人たちが守り繋いできた空間
- ・120年以上続く催事“水戸の梅まつり”

【配慮すべき事項】

- ・物証だけの継承ではなく体感、体験の継承
- ・誰でも自由に楽しめる場所
- ・「地物を食す場所」や「体感、体験」の提供

本質的価値の核となり、歴史や風景を活かしたゾーン

【方向性】

<コト消費>と<モノ消費>

- ・梅以外にも楽しめる歴史文化の体験イベントの実施
- ・偕楽園の思想を体感できるストーリーの体験
- ・心身の保養の場としての活用・充実
- ・“水戸に行きたい・見たい”を思わせるPR・情報発信の工夫
- ・歴史的・景観的価値を満喫できる風景の保全、形成
- ・日本一の美しさの梅林づくり
- ・快適にくつろげる環境の整備
- ・安心・安全な利用のためのバリアフリー化
- ・誰もが偕楽園の良さを知ってもらうためのユニバーサルデザイン

偕楽園本園の魅力向上に加えて

歴史館の活用

- ・偕楽園を含む水戸の歴史を学ぶ場所, ゲートウェイ
- ・展示リニューアル, 飲食機能, 体験機能

弘道館の活用

- ・一張一弛の関係として、偕楽園との連携強化
- ・定期イベントの恒常化

・ 借楽園拡張部、少年の森地区のコンセプト ～水とみどりを活かしたエリア～

拡張部

【特性】

- ・水とみどりの空間が地元住民の憩いの場（散歩、広場利用、イベント会場）
- ・本園からの風景、眺望を保全

【配慮すべき事項】

- ・物証だけの継承ではなく体感、体験として継承
- ・誰でも自由に楽しめる場所
- ・「地物を食す場所」や「体感、体験」の提供
- ・拡張部に三名園の品格を持たせる

水辺とみどりを活かしたゾーン(身近な非日常)

【方向性】

<コト消費>と<モノ消費>

- ・時間を忘れのんびり過ごせる空間の提供
- ・民間アイデアによるイベント
- ・水辺を活かしたアウトドア体験・家族連れや子供が夢中になる遊びのコンテンツ提供
- ・本園からの眺望を意識した整備
- ・水とみどりの景観を楽しむレストラン、休憩所（多彩で高質な機能、三名園の品格）
- ・民間事業者の資金による拠点整備

優先的に取り組むべき事項

ステップ1 核となる集客施設誘致

○民間事業者による施設設置の公募

- ・歴史と水とみどりに調和したコンセプト
- ・行政にはない自由で斬新なアイデア
- ・質の高いサービス
- ・風景の保全・育成に資する規模・デザイン

ステップ2 更なる誘致・運営検討

○更なる公募【シンポジウム開催】

- ・共に行動する“仲間”をつくる 一体感の醸成

○公園管理のあり方

- ・エリアマネジメントの観点から望ましい管理運営検討

少年の森

【特性】

- ・大型の複合遊具を中心とした子どもの遊び場
- ・本園の眺望保全(樹林地)

【配慮すべき事項】

- ・休憩施設を望む声
- ・駐車場の混雑
- ・遊具の充実
- ・偕楽園・千波湖とのアクセス性が悪い
- ・眺望がよくない

水辺とみどりを活かしたゾーン ～子どもが1日中楽しめる公園づくり～

【方向性】

<コト消費>と<モノ消費>

- ・民間アイデアによる親子がずっといたくなるプログラム、メニュー、イベント
- ・子どもが遊びたくなる木々を活かした遊具の増設
- ・好文亭, 本園の眺望が楽しめる空間の整備
- ・イベント開催が可能な広場
- ・より多くの利用者を迎えられる駐車場(整備済)
- ・子どもが安心して使用できるトイレ(整備済)
- ・千波湖からのアクセス向上

千波公園のコンセプト ～都市の中にある湖・豊かな生活を過ごせるエリア～

千波公園

【特性】

- ・斉昭が愛した風景の構成要素
- ・地元住民の憩いの場(散策 ポート遊びなど)
- ・ジョギングロードは市民のスポーツの場(ウォーキング, ジョギング, 散策など)
- ・多様な動植物「日本の重要湿地」に選定

【配慮すべき事項】

- ・滞在型の(屋内)施設が少ない
- ・地元の食やお土産等を楽しめる場がない
- ・ジョギングロードの老朽化
- ・夏季にアオコが発生(水質の改善)

都市の中にある湖 豊かな生活を過ごせるゾーン

【方向性】

<コト消費>と<モノ消費>

- ・民間アイデアによるイベント
- ・水辺や水面を活かしたアウトドア体験

- ・ゆったりと過ごせる施設の整備
- ・日常利用・観光に資する飲食・物販施設の整備
- ・千波湖の眺望を楽しめる飲食施設の整備
- ・楽しく、安全に走ることができるジョギングロード整備
- ・千波湖をきれいにするための水質浄化

優先的に取り組むべき事項

◆ステップ1 核となる集客施設整備

○民間事業者による施設設置の公募

- ・地元による集客施設(飲食・物販など)
- ・風景の保全・育成に資する規模・デザイン
- ・斬新なアイデアによる賑わいづくり

ステップ2 更なる誘致・運営検討

○更なる公募

- ・消防学校跡地など、千波公園内の別エリアで充実

○公園管理のあり方

- ・エリアマネジメントの観点から望ましい管理運営検討

6 アクセシ性の向上

6-1 アクセス向上の方向性

【課題】

- ・駅から単に移動するだけ(面白味に欠ける)
- ・移動手段が限定的
- ・移動距離が長い
(集客施設間は直線距離で2km以上)
- ・JR常磐線や道路による本園と拡張部・千波湖の分断

【検討事項】

◆水戸城(駅)からのアクセス向上

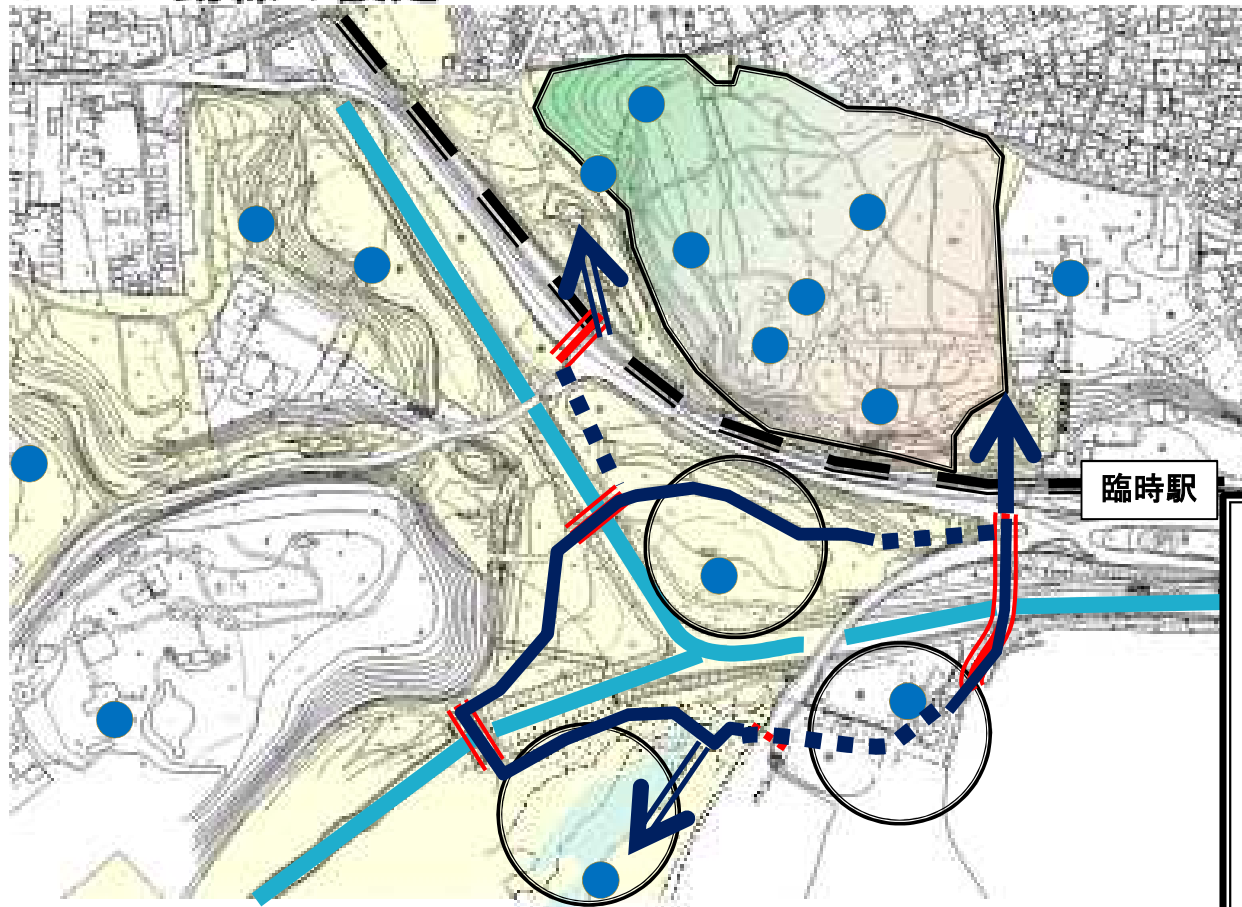
- ・偕楽園の各ゾーンのアクセス向上
- ・偕楽園, 市街地, 水戸駅のアクセス向上

◆移動が楽しくなる、周遊できる移動ルート

- ・水運、バス、自転車など多様な移動手段の提供
- ・往時の気分で移動できる楽しさの提供



6-2 動線の設定



4つのゾーンに点在する
文化的・景観的拠点 ●

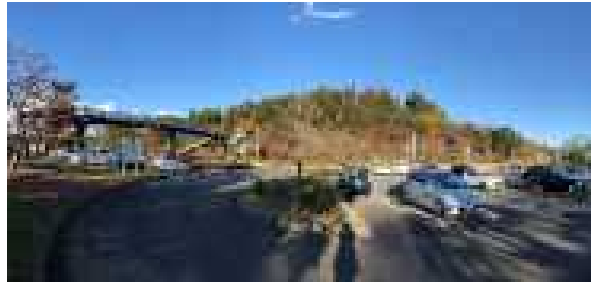
- ・見て歩くことが楽しくなる
動線
⇒ 文化的資源を体験できる
ストーリーがあるルート
- ・景観的資源に配慮
⇒ 景観調和(規模)、
統一性(デザイン)



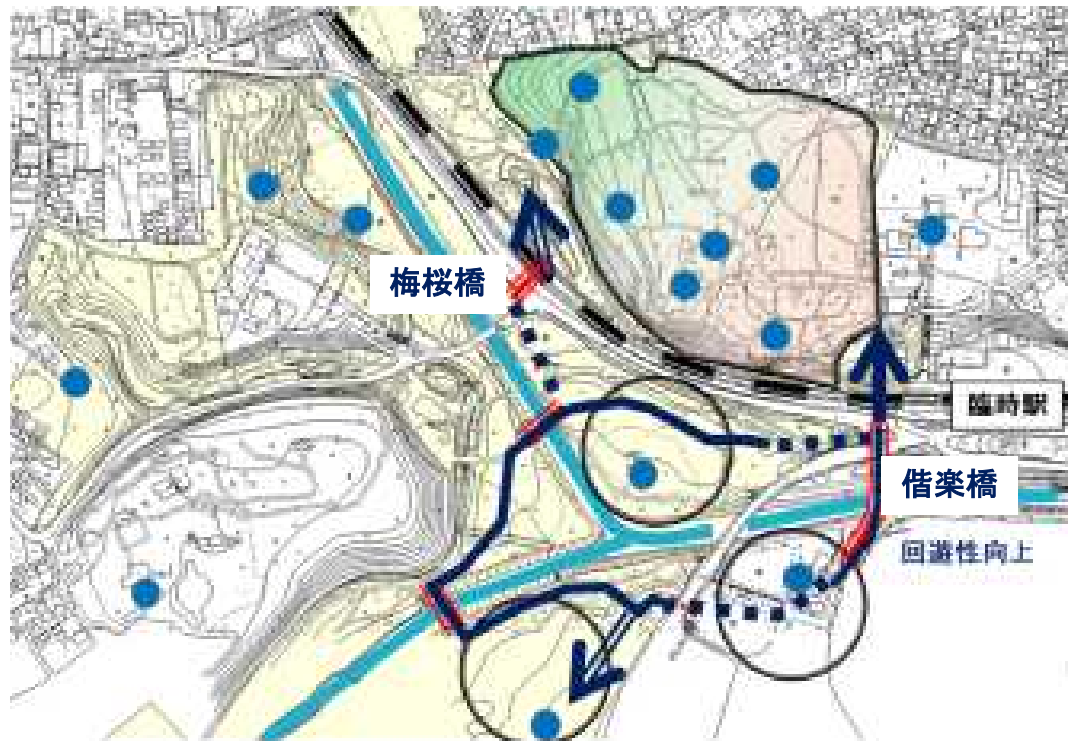
6-3 借楽橋、梅桜橋の改良

分断された4つのゾーン
を繋ぐ重要な土木構造物

梅桜橋 L=125m



借楽橋 L=182m



◆風景の保全・育成

- ・景観との調和、眺望障害
- ・統一感
- ・適正な規模感(スケール感)

◆動線としての機能の充実

- ・歩行者に加え自転車などの走行
- ・広範囲の移動補助電動モビリティ
- ・移動円滑化のためエレベータ等

◆コスト比較 ※エスカレータ, EV含む

7 コト消費(ソフト)の導入イメージ

行政主導によるイベント誘致



レセプション



人力車



ライトアップ



好文亭での
呈茶事業

◆民間事業者からの提案を受け入れる環境づくり



イズム コンセプトにあったイベントの企画運営

人材育成

例) 肥後細川公園
(東京都)
企業研修



例) 市の宿
(広島県)
結婚式



六芸

例) 万博日本公園
(大阪府)
黒松剪定

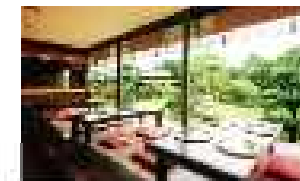


例) 竹細工体験



産業振興

例) 佐野美術館
(静岡県)
レストラン



保養・リフレッシュ

例) 清澄庭園
(東京都)
ヨガ



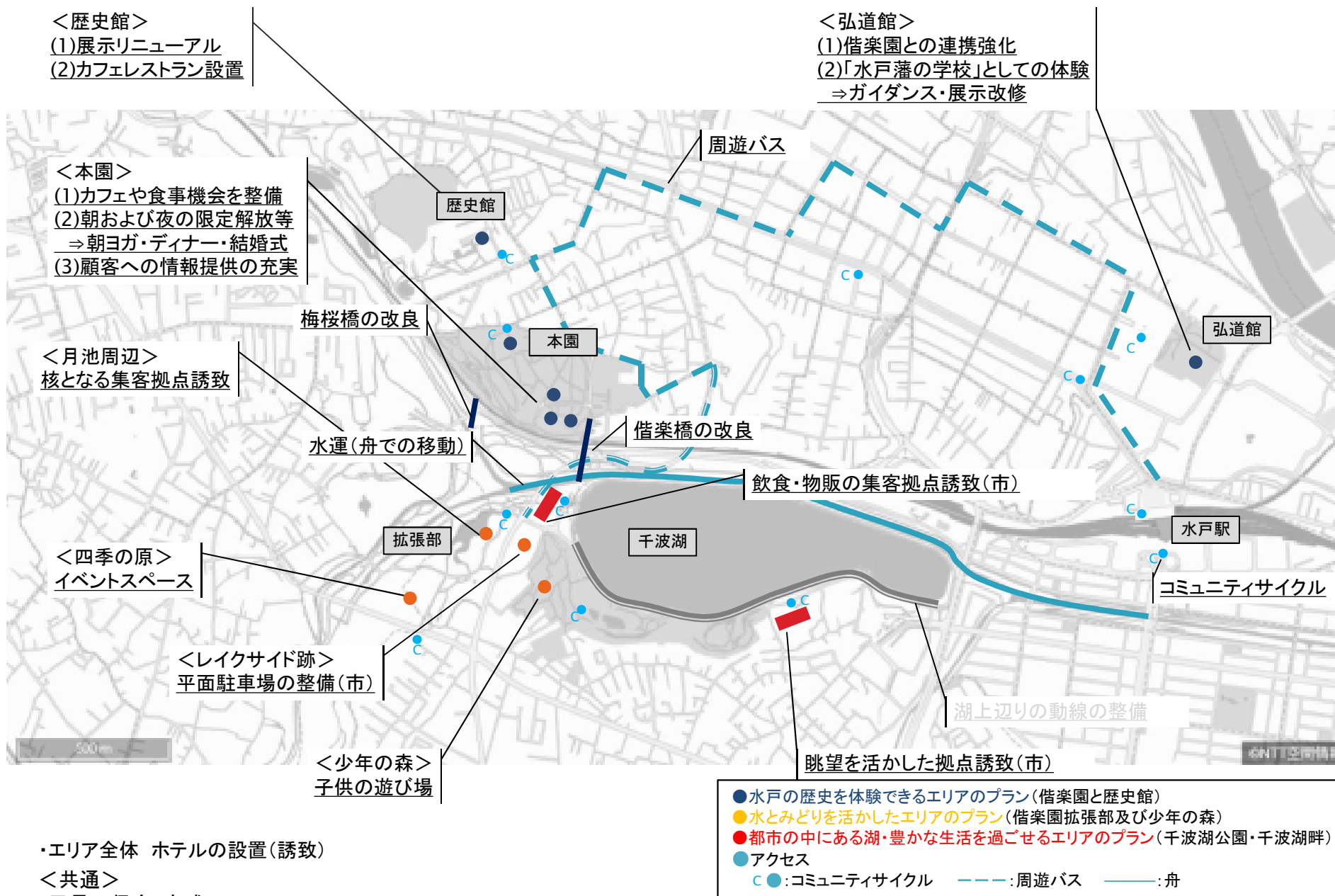
◆民間事業者から募集

明確なターゲット設定によるイベント・プログラム展開



利用者が利用しやすい
魅力的で、持続的なコンテンツの提供

8 アクションプラン(案)



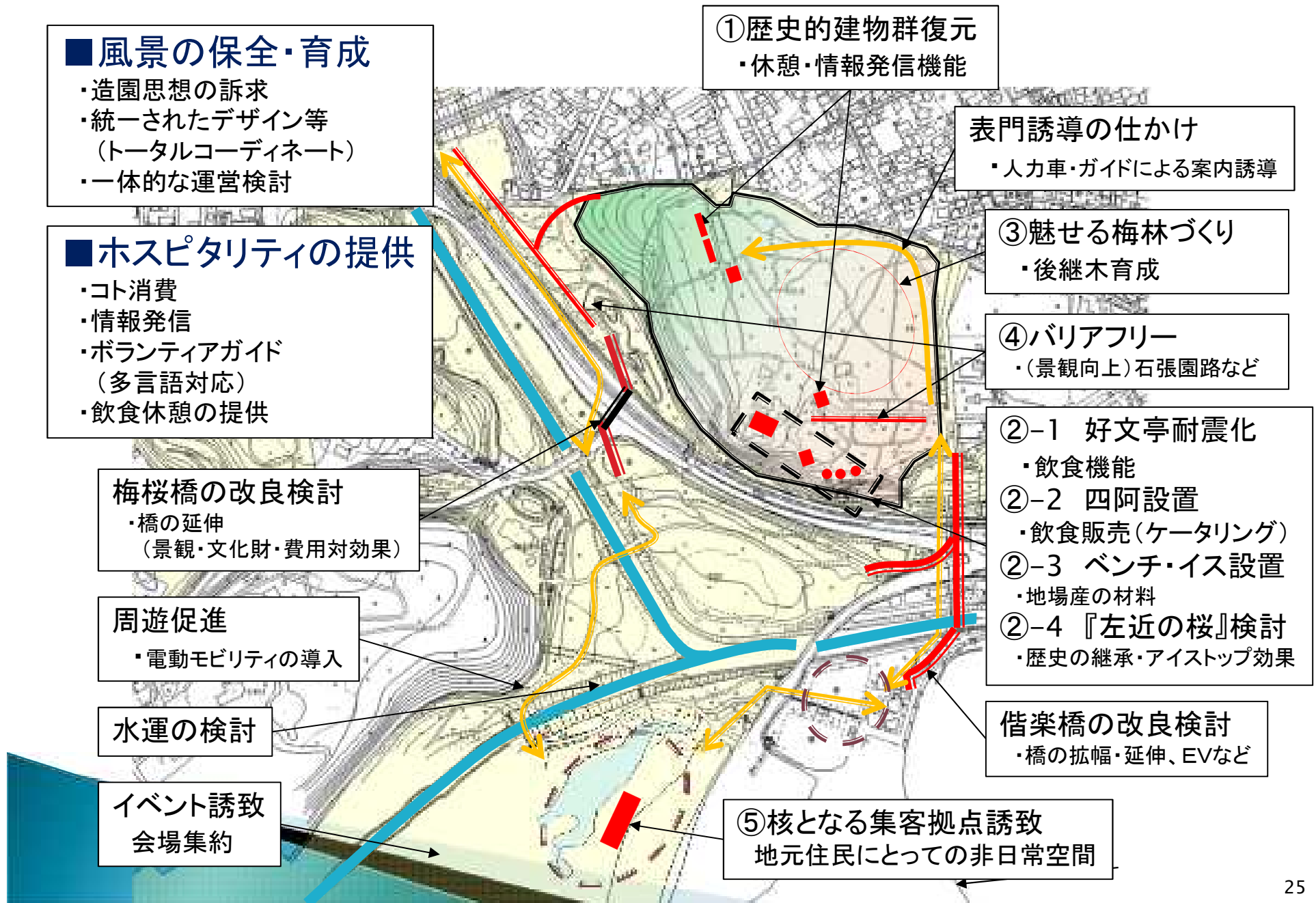
・エリア全体 ホテルの設置(誘致)

<共通>

・風景の保全・育成

・デザインガイドライン・ルールの設定

8-1 借楽園アクションプラン(案)



■風景の保全、形成

景勝地, 当時の最先端の造園技術の巧妙

造園技術の訴求

検証: 現代の造園技術

▶ 樹勢, 樹高の積極的な管理

東塗縁



好文亭からの景観
梅林の景観(梅畑ではない) など

⇒ 魅せる風景づくり

楽寿楼



東 開放的空間



西 四季の変化



26

統一されたデザイン

色, フォント, 仕様が統一性なし



ルールを決めた運用



一体的な運営検討

民間事業者, イベント, 管理者

同じ方向を向いた運営づくり

■ホスピタリティの提供

偕楽園のコンセプト

本質的価値(文化的・景観的資源としての価値)を通じて、あらゆる人々が学び、楽しみ、癒される場



▶ 女性、インバウンドなどすべての人が観光を楽しんでもらい、実りある豊かな人生を享受してもらう

ホスピタリティとは

お客様をお迎えする精神

- ・ボランティア育成
- ・管理者教育
- ・偕楽園にふさわしい景観

精神に基づく行為

- ソフト
 - ・情報発信(コンテンツ・ガイド)
 - ・飲食提供
 - ・コト消費
- ハード
 - ・受入環境整備

行為により発生する関係性

- ・心に残る体験⇒感動
- ・顧客満足度向上

フォローアップ

例) 仮設建物の景観向上

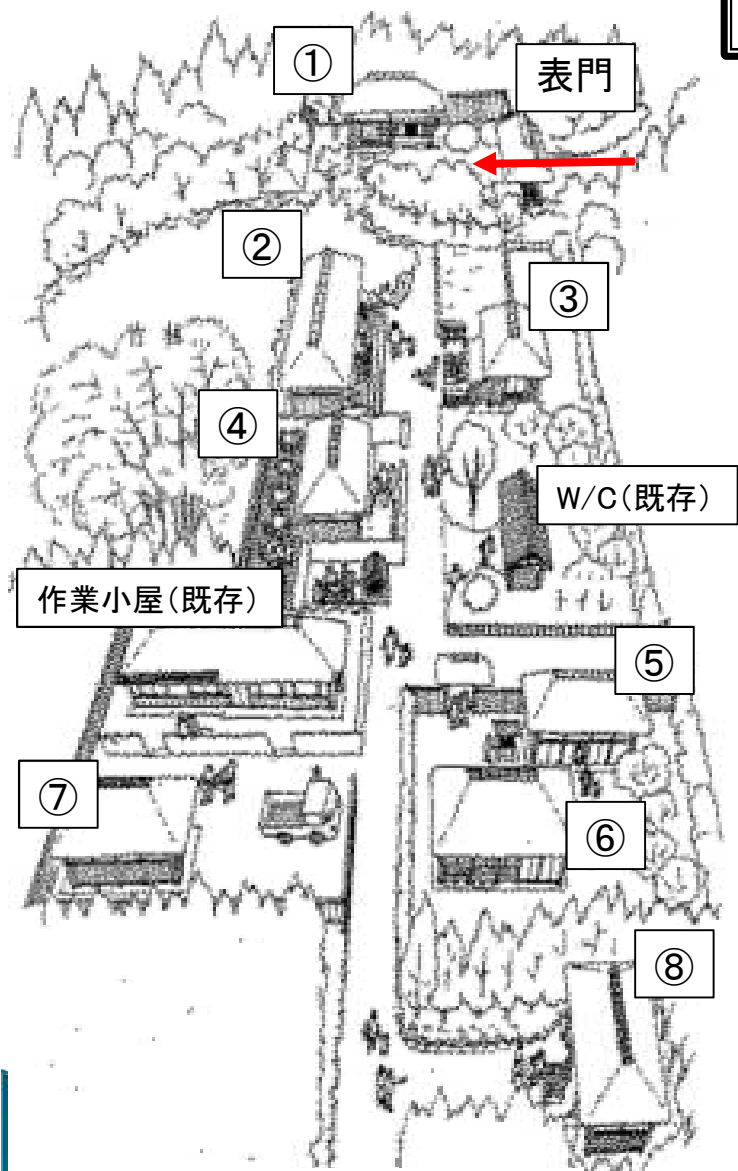
例) パイプイスの景観向上

例) 挨拶・お迎え

例) ボランティア育成



① 歴史的建物を復元



必要機能

- ・好文亭以外の拠点づくり (研修会, イベント会場など)
- ・竹林のポテンシャルを活かした会場 (食事会, コンサートなど)
- ・歴史的景観の復元
- ・表門側への誘導

外観イメージ



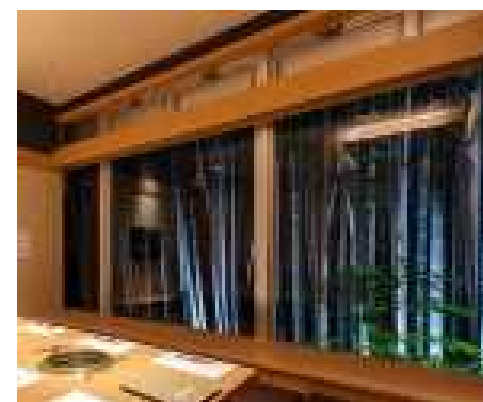
内装イメージ



外観整備(管理者)



内装整備(民間)



参照

- ・偕楽園公園魅力向上懇談会(H22.1)
- ・偕楽園保存活用計画書(茨城県H19.12)

①歴史的建物を復元



必要機能

- ・園内動線の中で多様なニーズ（休憩機能, 梅の情報, 園内案内）
- ・芝前門からの景観向上
- ・売店機能は全体で再構築

外観イメージ



借楽園運営の拠点

建屋復元(外観整備)

状況に応じた多様な利用
例) イベント本部,
園内のガイダンス,
休憩所



内装イメージ



②眺望ポイント(好文亭・見晴広場)での休憩所 飲食の提供

必要機能

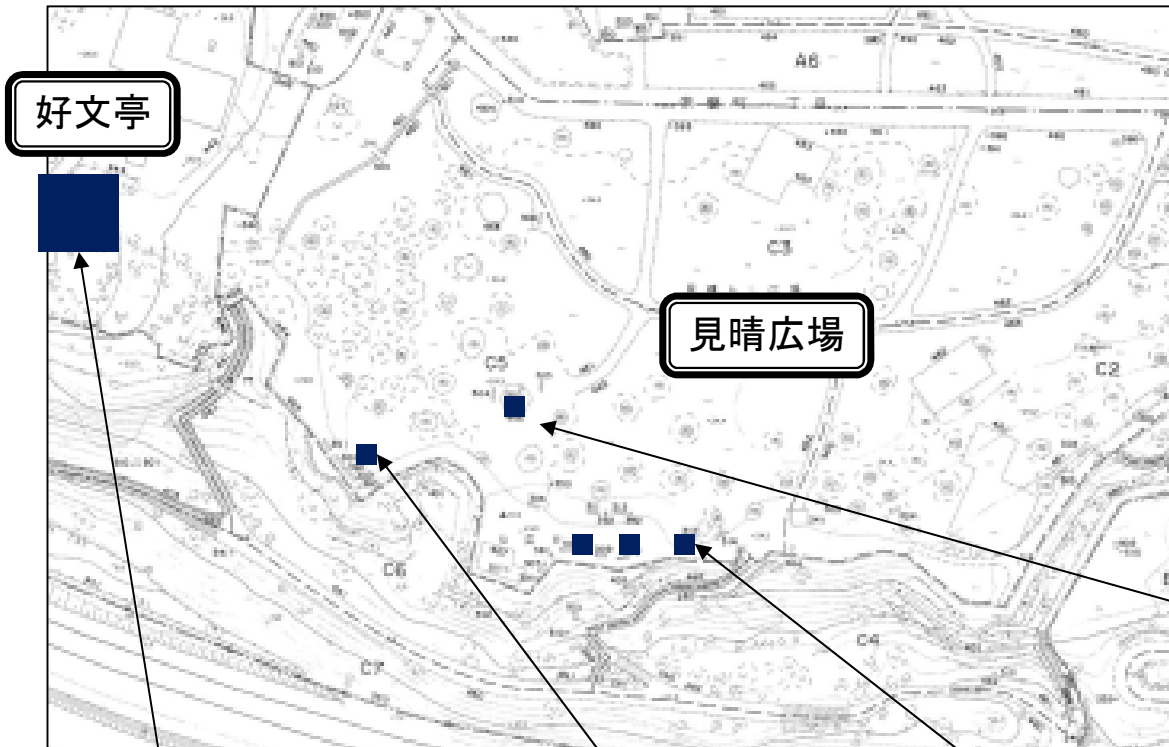
好文亭の積極的な利用
見晴広場の活用

- ・好文亭の耐震改修
- ・見晴広場の四阿復元
- ・休憩所

公園で自由に過ごす

左近の桜(宮内庁から下賜予定)

- ・吉子夫人の想いの物証
- ・借景のアクセント(アイストップ), ビスタを考慮した高さ



好文亭耐震改修



飲食の提供



四阿復元

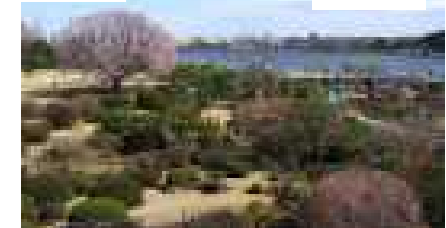
飲食の提供



ベンチ・テーブル

- ・仙奕台の基盤を連想
- ・地場産の材料

アイストップ



ビスタ



③魅せる梅林づくり



日本一の魅せる梅林

シークエンス(移動しながら眺める景観)
のランドスケープデザイン

①圃場整備

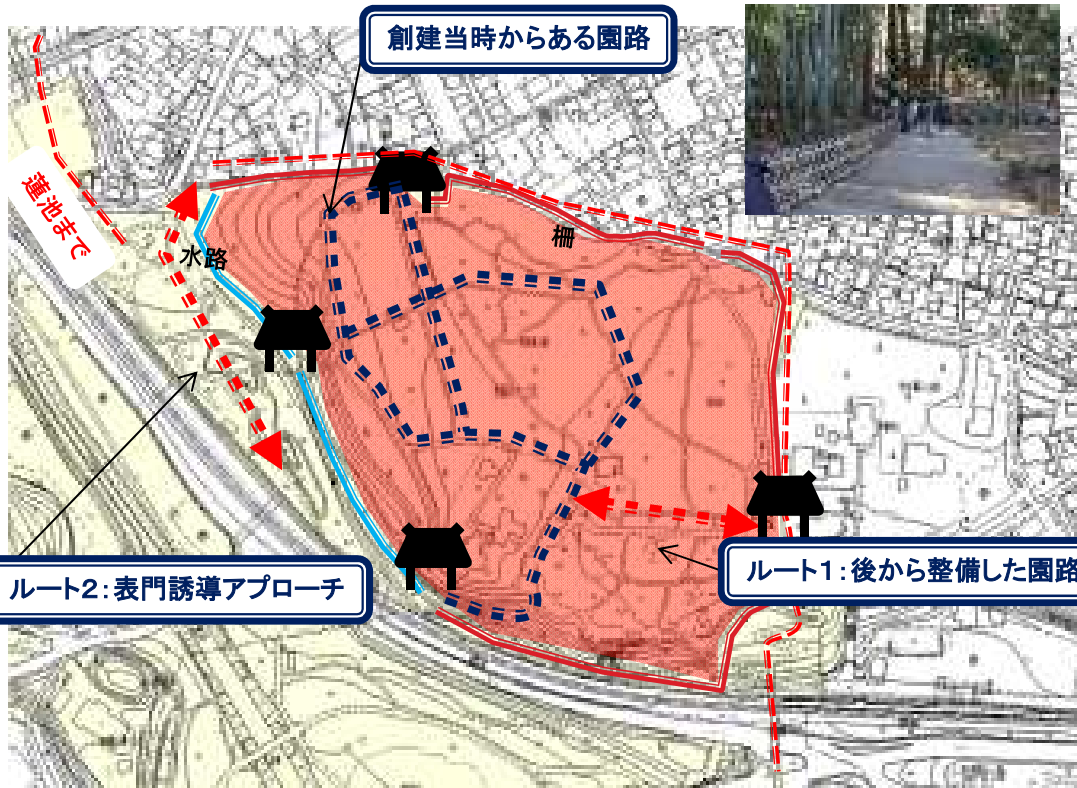
後継木の育成

②梅林再生計画

魅せる梅林計画

⇒ 回遊性、視点場づくり

④バリアフリー 景観向上 表門アプローチ



必要機能

保存の範囲内で 園内の走行改善・粉じん対策

【社会実験】

- ・砂利の側方流動対策

【効果】

- ・歩行改善
- ※車両往来に課題あり



ルート2: 表門誘導アプローチ

ルート1: 後から整備した園路

園路イメージ

<部分施工>



<全施工>



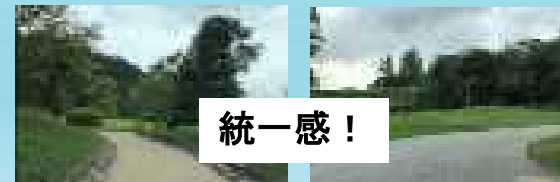
ルート1

- ・後から整備した園路の美装化・バリアフリー
- ・江戸時代にあった園路仕様(県産材活用)



ルート2

- ・表門誘導ルートの整備
- ・景観統一(舗装仕様の統一)



統一感!

⑤身近な非日常を楽しめる施設

事業方針

P-PFI制度
民間事業者の資金による拠点整備

公募方針

- ・現代版“衆と偕に楽しむ場”
- ・本園からの眺望を保全
- ・水とみどりの空間を最大限発揮できるもの

ターゲット

- ・本園利用者
- ・散歩や通学者(日常利用の目的地)
- ・地元住民(非日常空間の目的地)

選定委員会(案)

- ・アクションプラン検討会委員(公園マネジメント、景観、観光)、財務、行政関係の専門家で構成予定
- ・千波湖エリアの民間公募との調整

- ・ちょっとした非日常を楽しめる施設
(多彩で高質な機能、三名園の品格)
- ・本園と水とみどりの風景を堪能できる拠点

- ・本園イベントの代替拠点(雨天)
⇔ 本園と一体利用
- ・本園・まちなかへの利用者誘導

魅せる風景の提供



8-2 歴史館アクションプラン(案)



○歴史館の整備

現状・課題

- ・歴史館は令和6年度に開館50年を迎える。
- ・展示の老朽化, 旧式化, 陳腐化が目立つ。
- ・学術的な雰囲気は漂ってしまい, 学ぶ目的がないと足を運ばない。
- ・「観光客向けの博物館となっていない。地元の人ですら訪れること自体敷居が高い。」
(星野リゾートからの指摘)
- ・敷地内にある文化財やスペース等を有効に活用できていない。

茨城県の魅力を発信する歴史観光拠点施設へリニューアル！

○プロジェクションマッピングやAR等を活用した体験・体感型のわかりやすい展示へリニューアル

- ・歴史館を目当てに県内外から観光客が訪れるような, 新しい観光スポットへと一新。
- ・水戸観光のゲートウェイともなるよう, 偕楽園や弘道館, 水戸藩などの展示を追加。
- ・茨城の歴史の深さと未知の豊かさを紹介し, 茨城の魅力を伝える情報発信基地。

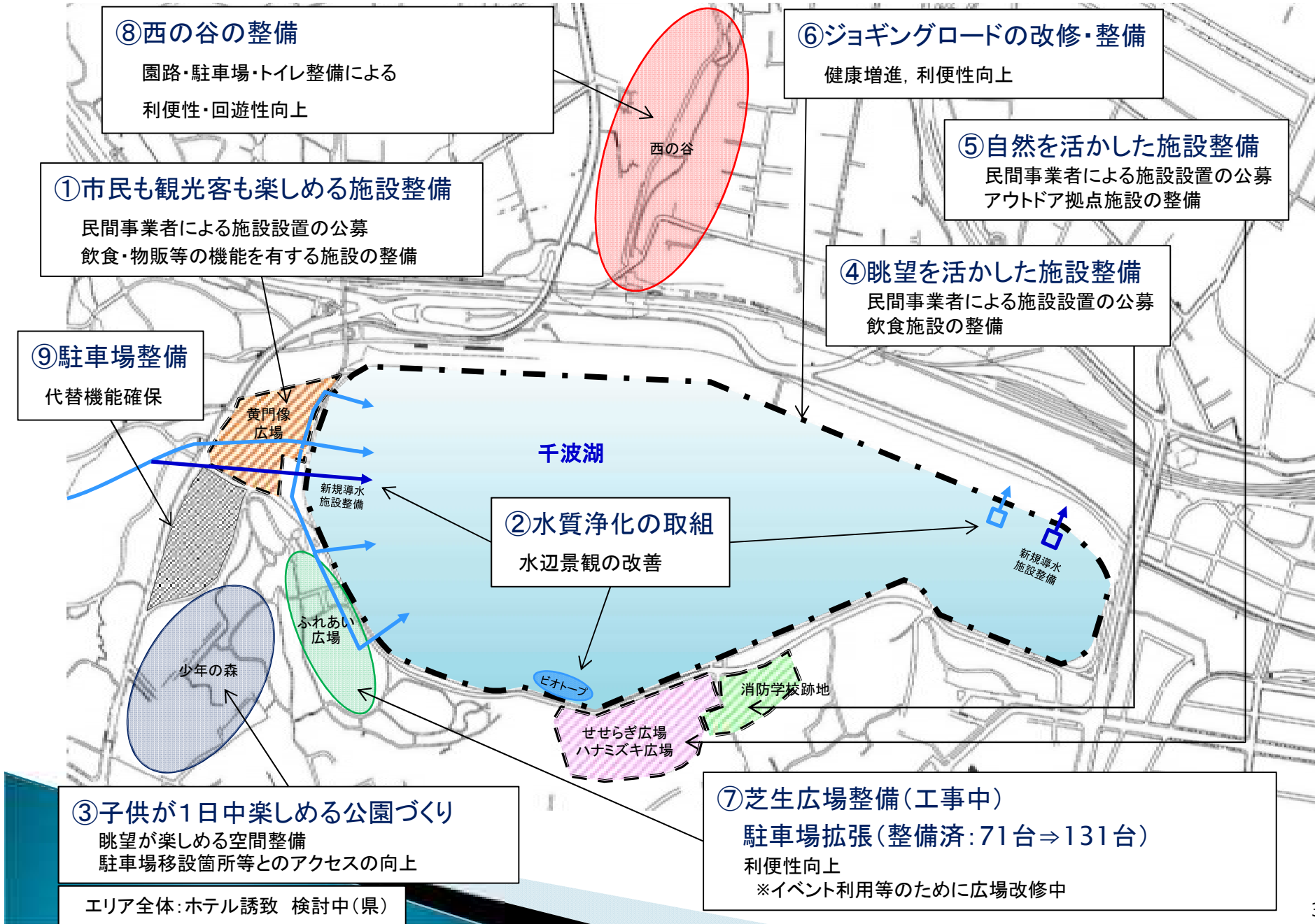
○くつろぎの場としてのカフェレストランの整備

- ・館外に気軽に訪れることができるカフェレストランを整備。
- ・来館者, 観光客, 地域住民による賑わいの創出を目指す。
- ・観光インフォメーションコーナー(Wi-Fi整備), 土産販売コーナーを併設。

○文化財を活用した体験の整備

- ・敷地内にある歴史的施設を活用し, 文化体験ができるよう整備。

8-3 千波公園アクションプラン案



①市民も観光客も楽しめる施設整備

●黄門像広場周辺地区の整備



水戸市基本計画
借楽園・千波公園を訪れる人々へのおもてなしの拠点

【水戸市基本計画での方針】
・交流拠点として、千波公園の新しい魅力の創造と発信
・多面的な交流を育む ・民間活力の導入

【サウンディング調査での提案】
・カフェ、レストラン、スポーツ施設等の複合施設
・レストラン ・カフェ ・ホテル 等

※ 令和元年9月実施

市民も観光客も楽しめる施設の整備を目指す
『飲食・物販等の機能を有する施設』の整備

※ 当該地区以外についても、当地区での実績を踏まえ検討をする。

ターゲット

- ・借楽園および千波公園の利用者
- ・地元住民
- ・散歩や通学者

事業主体

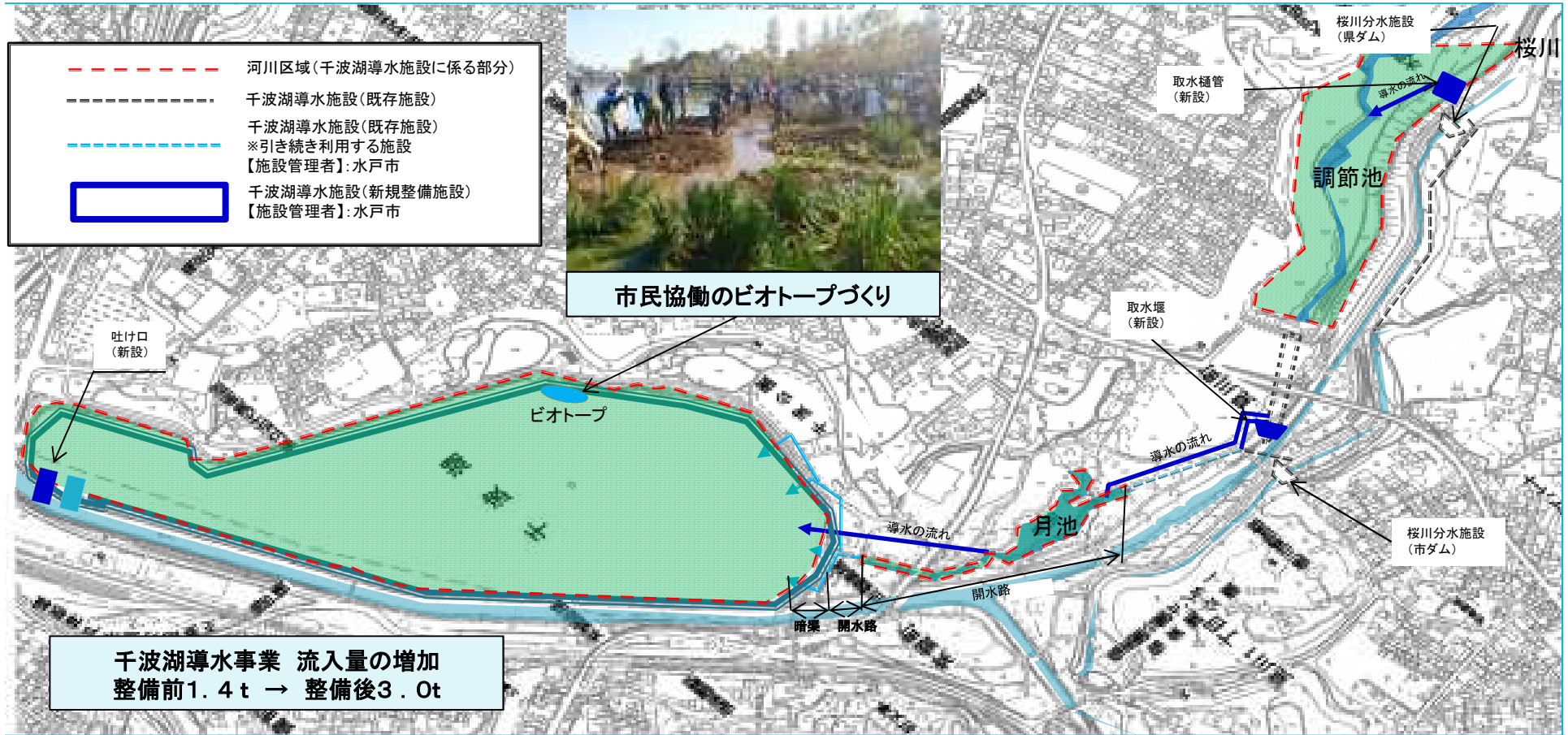
- 整備：民間事業者の資金による拠点整備
- 運営：民間アイデアによるイベント等の実施

選定委員会(案)

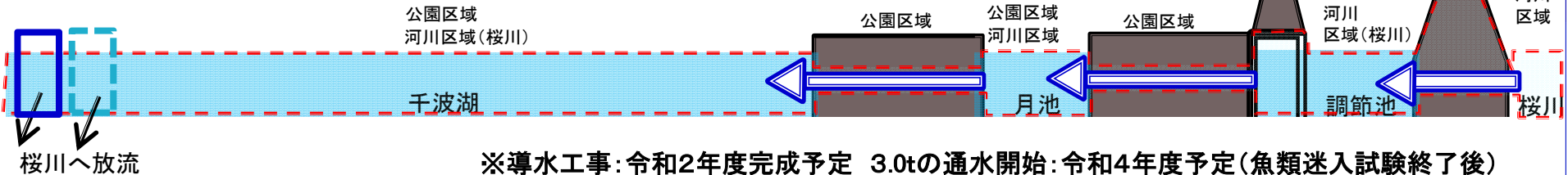
- ・公園マネジメントや観光、景観、都市計画、財務、行政等の専門家で構成予定
- ※借楽園拡張部の民間公募の選定委員と調整

千波公園における施設整備については
本地区を優先して実施する

②水質浄化の取組



導水事業による、千波湖への流入量の増加により、千波湖の水の循環が改善されるため、アオコの発生が抑制され、水辺景観の向上が図られる。



③子供が1日中楽しめる公園づくり ～少年の森～



整備済箇所



さらに必要な機能

- ・眺望が楽しめる空間の整備
- ・千波湖や駐車場整備箇所とのアクセスの向上
- ・遊具の増設

子どもが1日中楽しめる公園を目指す

9 事業実施の進め方

○借楽園魅力向上アクションプラン検討会

・ゾーニング設定 ・コンセプト(案) ・アクションプラン(案)の作成

○フォローアップ

具体化に向けた詳細な検討 ⇨ 専門部会を設置

専門部会(案)

【マネジメント部会】

総合調整

運営(民間誘致含む)

- ・公園マネジメントの専門家
- ・観光の専門家 など

トータルコーディネイト
拡張部での集客拠点

【空間活用部会】

イベント

- ・観光、公園活性化の専門家
など

コスト消費
飲食・休憩の提供
水運検討

【広報部会】

情報発信

- ・観光の専門家
- ・地元関係者 など

HPやコンテンツの検討
ボランティア育成

【歴史部会】

文化財

- ・文化財の保護・保全の専門家
- ・借楽園・水戸の歴史の専門家
- ・歴史景観の専門家 など

建物復元など整備

【ランドスケープ部会】

造園思想の訴求

- ・造園の専門家
- ・景観の専門家 など

日本一の梅林
造園技術の訴求

【橋梁部会】

アクセス向上

- ・橋梁の専門家
- ・橋梁景観の専門家 など

借楽橋,梅桜橋の改良